

傍線部がパーツに分けられるなら、 パーツごとに言いかえよ。

〈具体〉	一石	二鳥	同時に	手に入れる
〈抽象〉	一つの行動で	二つの利益を	同時に	手に入れる

たとえば、「一石二鳥とはどういうことか」と問われたら、右のように分けて考える。比喩的表現には意味が凝縮されているため、パーツ3・4のように、省略されている部分があることもある。これを、本文をもとにして補いながら考えていく。これが、――部(傍線部)を言いかえる設問の鉄則である。――部がパーツ(部分)に区切れるならば、確実に役立つ技術だ。

 言いかえる力

 くらべる力

 たどる力

 記述式

 非記述式

 説明的文章

 文学的文章

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

「病は気から」と言う。しかし、体が不調のときに「病は気からだよ」と言われても、気は休まらない。むしろ、もやもやとした不安が残り、病がつづる。

また、肩や首が痛いとき、「ストレスのせいだよ、もっと気を楽に持って」などと言われても、気を楽に持つことはできない。痛いものは痛いのだ、と思ってしまう。

そのとき役立つのは、「名づけ」である。たとえば、首・肩の痛みについて、医師から「それは頸肩腕症候群だね」などと小難しい病名を言われたとする。とたんに、「どこか安心してしまふ。そうか、自分の痛みは病気なんだ。治療対象なんだ。」

名づけによって、ものごとは区別される。「単なる気のせい」と、「れっきとした病気」との間に、境界がでさる。その境界によって、私たちは安心する。

これが、名づけの効能である。

ある日、私は、胃の内視鏡検査をした。通常なら有効なはずの処方薬をしばらく飲み続けても改善していない胃痛を調べるため、あえて普段とは別のクリニックに向き、検査を受けたのだ。潰瘍か、はたまたガンか。入院・手術も覚悟して出向いたのだが、結果は、「まったくきれいな胃です」。粘膜になんの炎症もないという。

じゃあ、なぜ痛みが続くのか。ここで、普通なら「気のせいです」「ストレスのせいです」となるのだろう。私自身、医師の口からその言葉が出るものと直観した。

しかし、医師はこう言った。

「FDですね。ファンクショナル・ディスペプシア」
なんだかカッコイイじゃないか。調べてみると、機能的胃腸症と訳すらしいが、カタカナのほうが響きがいい。いかにも病気らしい。